

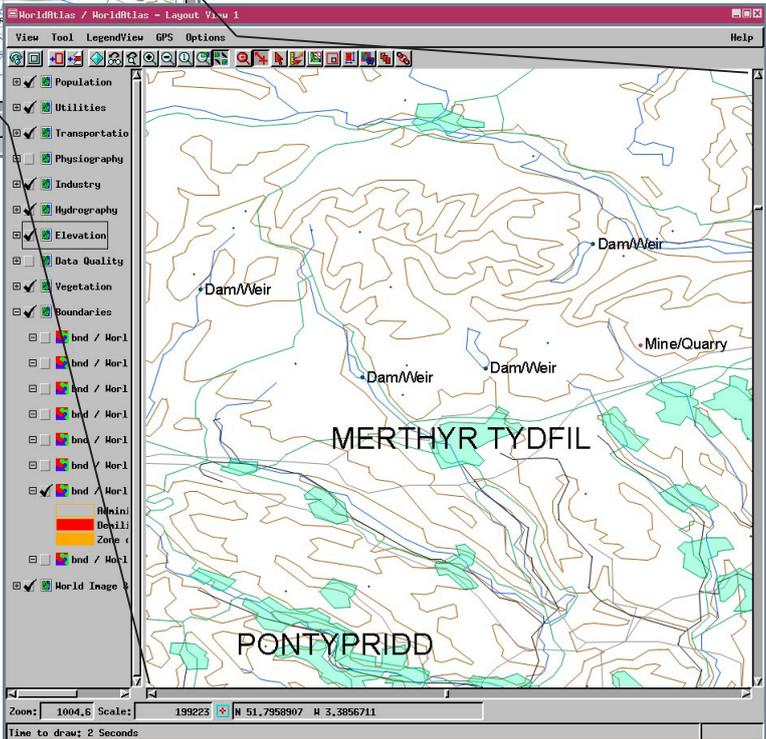
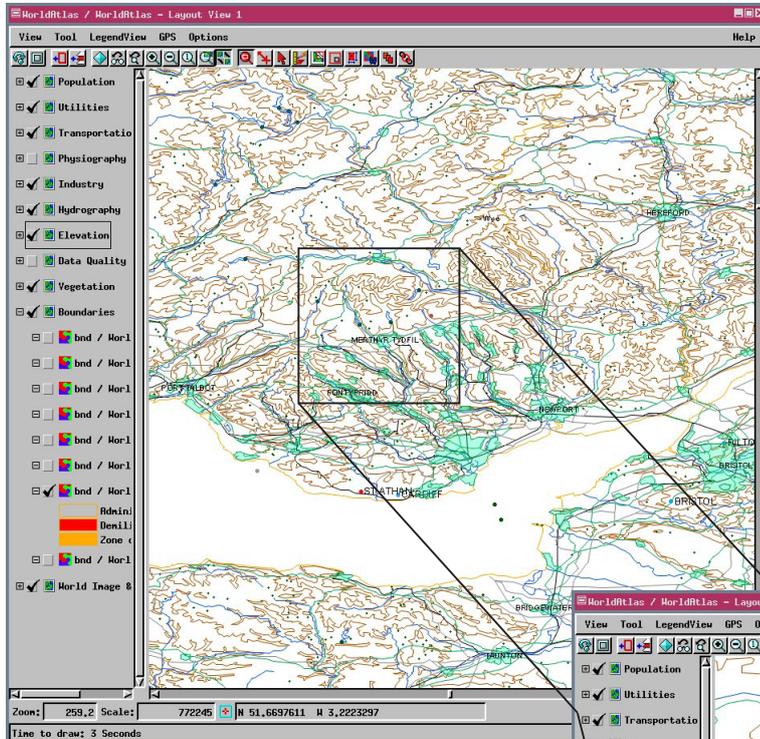
ラベルの縮尺コントロール

地図縮尺コントロールとは、グループやレイヤ、または要素の表示を、拡大や縮小することによってオンとオフに切り替える機能です。TNT 製品には 2 つのタイプのラベルがあります：1 つは「ラベル要素」* で、空間データエディタで設定し、エディタ内で対話的に配置します。もう 1 つは「ダイナミックラベル」で、空間データ表示処理で様々な位置パラメータを使用して設定します。前は地図縮尺コントロールは、ラベル要素を含んだベクタオブジェクトにしか適用

できず、ダイナミックラベルでは使えませんでした。現在は両方のラベルに対して地図縮尺によるコントロールが可能です。

この図ではラベルの詳細度の違いをグローバルセットデータを使って示しています。

最新版の TNTmips の購入者がマイクロイメージ社から入手できるグローバルデータセット (テクニカルガイドの「グローバルデータセット (Global Data Sets)」を参照) では、55 個のベクタオブジェクトからレイアウトが作られており、データソースは VMap0 です。VMap0 では、各テーマは 1 つの要素タイプから構成されており、ポイントやライン、ポリゴンの他にラベル要素を持ちません。



TNT 製品では、1 つのオブジェクトの中にラベル要素が付いたポイントやライン、ポリゴンをサポートしています。ダイナミックラベルでは、必要な時にラベル表示が出来ます。全てのオブジェクトにラベルが付いていなくても、データタイプを設定できるので、画面に大量のテキスト表示をしなくても要素の属性を見ることが出来ます。

地図縮尺によるラベルコントロールの目的は、読める位の大きさになるまでラベルを表示しないことです。小さくラベル表示されると、さらに拡大しなければ見られない情報がそこにあることが分かりますが、一般に、判読しにくいラベルは画面を見にくくして他の重要な情報を遮蔽することが多く、ラベルの存在を知らせる意味はないかもしれません。

2 つの表示ウィンドウでは、地図縮尺によって現れるダイナミックラベルの違いを示しています。World Atlas レイアウトを全体表示した場合、ラベルは表示されません。左上のウィンドウでは、MODIS モザイク画像が描画されない状態まで拡大した時のラベルを表わしています。右下のウィンドウでは、さらに拡大した時に追加表示されるラベルを表わしています。

(注) * 他の GIS ソフトではアノテーション (注釈) と呼ばれることがあります。